

第10回勉強会 2005年12月16日

中国の農業と技術協力を考える

安達武史 (有)アールディーアイ

講演内容

1. 中国とはどんな国
2. 中国の農業事情
3. JICA プロジェクトから見えてくるもの



湖北省の菜種 2004年

摘要

報告者は、2002年7月から2005年6月まで、JICA 長期派遣専門家として中国湖北省菜種(なたね)生産技術開発プロジェクトに参加し、技術普及分野を担当。中国社会の現在の姿や農業事情、そして菜種油生産の重要性などの説明のあと、プロジェクトの起こりから、状況に応じて変更と工夫を加えた活動を詳述した。農家調査、菜種生産費調査、流通加工調査、品質調査など各種調査の実施を通じて見えてきた、湖北省の農村と農民、農産物生産と流通などについての感想を語った。湖北省の菜種産業開発の展望や成果ある技術協力を目指して何ができるかについても言及した。

第9回勉強会 2005年10月21日

1. フィリピンにおけるマージナルランド(低生産性地)の持続的農業開発

末光健志 (有)アールディーアイ

講演内容

はじめに

1. マージナルランドとは
2. プロジェクト概要
3. プロジェクトの立て直しとリーダーの役割
4. テクノデモファーム運営管理担当専門家としての仕事
5. マージナルランドに必要な技術とその普及システム



技術展示園場 2004年

摘要

フィリピンの農地およそ1,300万haのうち900万haが土壌・水環境の自然条件に恵まれず、農業インフラなどの社会環境整備も遅れ、農業生産性が著しく低い。貧困削減の観点から、このマージナルランドと称される土地に適する技術開発および普及・振興が重視され、「農民参加によるマージナルランドの環境お

よび生産管理計画」の実施につながった。報告者は、2003年7月から2005年1月まで、このプロジェクトで技術展示圃場の運営管理を指導する JICA 派遣専門家として活動した。小規模農家の農業生産を国や地方の諸機関と連携しながら向上させる方法について、活動事例に基づいて述べた。

## 2. モザンビークでの小農支援にどう取り組むか？－小農の現状と発展－

田村政人 (有)アールディーアイ

### 講演内容

はじめに

1. モザンビーク国の農業概要と国内格差
2. モザンビーク小農の実態
3. 業務実施計画と主要業務
4. モザンビーク小農の発展の糸口



ショクエ灌漑地区で 2004 年

### 摘要

報告者は、モザンビーク農業・農村開発省で 2001 年 6 月から 2005 年 10 月まで農業開発アドバイザーとして勤務した。同国はアフリカの中でも日本からの経済協力受け入れの歴史が新しい。80%以上の労働人口を抱える農村部へは、技術協力による農業開発支援が重要なテーマと考えられるが、16 年以上に及ぶ国内内戦で蒙った社会・経済インフラのダメージを今もひきずっており、農業開発上の大きな障害となっている。

農業の概要、国内経済格差、小農の実態、および農業開発アドバイザーとして経験した欧米ドナーの援助動向と日本の援助内容に対する考察を行い、それらの経験をベースにプロジェクト・ファインディングの一環として現場で実践した実証・試験内容を報告した。

## 第 8 回勉強会 2005 年 7 月 22 日

### 1. セネガル川流域に住む農民と私の活動について

岩井理恵 (有)アールディーアイ(当時)

### 講演内容

はじめに

- I. 任国の状況
- II. セネガルの自然環境
- III. 活動

おわりに



講演会で 2005 年

## 摘要

セネガル川流域では、政府の手厚い稲作振興政策によって大規模灌漑稲作が行われてきたが、国産米販売の低迷などにより、野菜との二毛作や、野菜栽培専門農家が増えてきた。そこでセネガル川流域デルタ開発公社は、野菜栽培の技術指導および有機質肥料や自然農薬を用いた持続可能な農業の普及を日本政府に要請した。青年海外協力隊の野菜隊員として、セネガル北部のリシャルツールで2年間農家に技術移転等の活動を行う中で気づいた、現地の農民に本当に必要なことや一番ネックになっている点等を語った。

## 2. マラウイの保健事情

荒木京子 (有)アールディーアイ

### 講演内容

はじめに

I. 任国の状況

II. マラウイの医療機関、医療教育機関

III. マラウイの保健医療政策

おわりに



義足の修理 1999年

## 摘要

マラウイ政府は、医療機材を無償援助したわが国のマラウイ医療教育機関への援助拡充を求め、まずは短期派遣専門家によるベースライン調査を行って目標を定めることになり、マラウイ保健省「医療技術者養成計画」に99年3月から6月まで派遣された。マラウイは、多種の風土病に加え、結核・エイズによる死亡により若年労働者の減少が貧困に拍車をかけ、エイズ対策に多額の予算を費やし、途上国から抜け出せない状況にある。医療機関は常に人材不足であり、母子保健に関しては早期結婚、多産、高い妊産婦死亡率、エイズといった問題がある。保健医療分野での日本の援助はハード面、ソフト面があるが、従来のような建物、機材中心の援助ではなく、顔の見える援助ということで、医療スタッフや教師の派遣など、ソフト面も強化したい。また従来の縦割りではなく、農業、教育、保健などの部門の連携が求められる。

## 第5回研究会 2005年6月24日

### 1. 開発に関する「参加」についての諸概論

矢口雄高 (有)アールディーアイ(当時)

### 講演内容

1. 参加型開発の推移

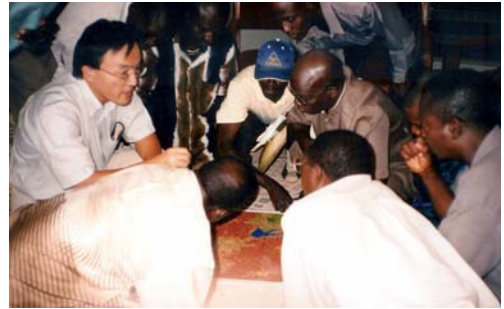
2. 「参加」と手法
3. 参加型開発に関する議論の類型化

## 2. 開発行政支援をつうじた貧困削減への取り組みーガーナ社会開発総合プログラムの経験からー

柿崎芳明 (有)アールディーアイ

### 講演内容

1. 協力の背景
2. プログラムの概要
3. アッパーイースト州開発行政支援プロジェクトの活動と成果
4. 実施上の問題
5. 今後への提言



開発行政機能の強化活動 2004 年

### 摘要

DAC 新開発戦略および第 2 回アフリカ開発会議において、分野横断的な貧困削減課題に取り組むには、複数の協力形態を有機的に連携させ、現地資源を有効に活用した総合的アプローチによる効果的な事業展開が不可欠と認識された。このことにもとづき、社会開発総合プログラムが予算化され、最初のパイロット国としてガーナが選定された。

準備段階を経て、二つのプログラムに整理され、そのうちの「アッパーイースト州開発行政支援プロジェクト」では、同州における開発行政能力が強化されることを目標に活動が行われ、一定の成果をあげたが、解決すべき問題もあり、今後への提言として結んだ。

## 第 7 回勉強会 2005 年 4 月 8 日

### 1. ボリビア・サンファン日本人移住の現状

岩崎寿光 (有)アールディーアイ

### 講演内容

1. 派遣の背景
2. サンファン移住地概要
3. サンファンの問題点
4. 注意していること



果樹管理作業 2005 年

### 摘要

2004 年 6 月よりボリビアのサンファン日本人移住地に赴任するに当たって、移住地の現状を知るための資

料をなかなか探し出すことが出来なかった経験から、今まで報告、紹介されることが少なかったのではないかと思います、入植開始 50 年後のサンファン日本人移住地の現状を報告する。

1955～2004 年 6 月 1 日までの総計入植者 302 家族、1,685 名のうち、現在残っているのは 218 家族、737 人(出生者を含む)。当初移住者の方々は熱帯雨林の原始林を蚊やアブなどの吸血昆虫や野生動物に悩まされながら切り開き、大変な苦勞をされてきた。現在は3世まで生まれており、生活も安定してきている。初期移住者の方々の多くは 70 歳を越え、営農をその子弟に任せる方が多くなり、老齡で亡くられる方も多くなってきているため、移住当初の記憶を記録に残そうとする機運が高まってきている。

## 2. パラグアイ国ラパス市栄養改善—シニア海外ボランティアの実践から—

高島章子 元 JICA シニア海外ボランティア

### 講演内容

#### はじめに

1. 案件の背景
2. 現状分析および活動計画
3. 実施経過と成果
4. 総括



食生活改善のための講習会 2000 年

### 摘要

パラグアイのラパス市は、先住民、メスティーソ、ロシア・ドイツ系移住者、日本からの集団移住者が暮らす、人種の坩堝であり、言語や文化、食生活も極めて多様である。報告者は、シニアボランティアとして派遣され、講習会や、豆乳補助給食、お楽しみ会食、野菜栽培などの活動を通して、食生活の改善活動を行った。中でも講習会では地域住民の参加を得て、互いに学びあうことで成果があがった。住民の自助努力が維持継続できるためには、住民の立場を正しく理解して活動することが大切である。